

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第1回 常任理事会

日時：2014年 1月 16日（火）19：00～

場所：コンセーレ J Cルーム

出席者：

- (理 事 長) : 村上(敬称省略 以下同)
- (直 前 理 事 長) :
- (顧 問) :
- (副 理 事 長) : 朝田、木村(英)、福田(之)、小瀧、須山
- (専 務 理 事) : 中島(崇)
- (監 事) : 黒川、澤畑、飯野
- (担 当 常 任 理 事) : 林、金
- (全国大会招致会議議長) : 羽石
- (会員拡大会議議長) : 太城
- (協働連携特別会議議長) :
- (法令会計審査会議議長) : 廣田
- (事 務 局 長) : 橋本

- 1. 開会宣言 < 中島(崇) > (役職名省略 以下同)
- 2 J C I クリード唱和 < 金 >
- 3. J C I ミッション唱和・J C I ビジョン唱和 < 林 >
- 4. J C 宣言朗読並びに綱領唱和 < 羽石 >
- 5. 関東地区宣言唱和 < 廣田 >
- 6. 出席者の確認 < 橋本 >
出席理事名 13 / 14 名
- 7. 議事録作人の指名 議事録 < 総務委員会 >
- 8. 前回議事録の確認 < 中島(崇) >
- 9. 議題並びに資料の確認 < 橋本 >
- 10. 理事長挨拶 < 村上 >

まずは本日から開会が19時ということになりまして、総務委員会の皆様におかれましては本当にこの早い時間から設営をしていただきましたことに関して、御礼を申し上げたいというふうに思います。このようにあたりまえのように、毎回我々がこの会議をできるというのは、やはり事務局長、そして総務委員長を中心とした総務委員会の皆様のおかげでありますので、我々はそのメンバーにこたえるためにもしっかりこの会議を、責任を持って円滑に、そしてしっかりとした議論を進めていかなければならないというふうに改めて思うとこ

るであります。そして、この19時開催という早い時間に、ほとんどの皆さんにお集まりいただきましたことに関しても、まずは御礼をさせていただきたいというふうに思います。

1月例会がおかげさまで無事に終了いたしました。この1月例会は新春交流会、これも毎年やっていることではありますが、その年の所信の表明をする場、そして関係する団体・来賓の方と交流をすることによって、我々の一年の運動をより円滑にしようというものであります。新妻委員長をはじめとする渉外委員会の皆様に企画をいただいたわけですが、参加していただいたメンバー一人ひとりが自覚を持って、おもてなしの心で迎え入れていただきましたおかげで、本当によい1月例会、1月のよいスタートが切れたのではないかなというふうに思っております。今年は来賓が多く、例年はメンバーで集まって懇親会をしていたわけですが、それが今年ではできなく、今度の総会のあとに新年会という形で開催させていただくこととなりました。またそこでも絆をより深めていきたいなというふうに思っているところでございます。私も一昨日は名古屋J Cの賀詞交歓会に、昨日は水戸の合宿賀詞交歓会に出席をまいりました。そのふたつのLOMの理事長と私は出向仲間ということもあり、応援も兼ねて行ってきたわけですが、ふたりとも本当にすごい所信表明を演説しておりまして、私もすごく刺激をもらいました。私も所信の中で触れてはいるわけですがJ Cはやはり繋がっていて、そしてそれぞれ刺激しあって、切磋琢磨して相互発展していく。これがやはり地域におけるJ Cの運動を最大化するのだというふうに、改めて実感をしたわけであります。専務にも一緒に行っていたのですが、専務も本当に大きな刺激をもらい、行ってよかったとお話をしていましたし、今度21日に仙台の賀詞交歓会に行きますので、もしお時間がある方は一緒に行ける機会がありますので、是非、一緒に行っていただけたらというふうに思います。

そして、1月に入って今日が一回目の常任理事会議ということなのですが、私もこの所信の表明があったというところで、自分の書いたものではありませんが、所信というものを本当に何回も読ませていただきました。そして、今年私の掲げた運動方針の再確認をさせていただきました。議長の皆様におかれましては、もちろん事業計画書を作っていたわけですが、書いていない常任理事の方々というのは、それぞれの委員会の事業計画、こちらを指導していただいたわけでありまして、この1月に、それぞれのラインで作上げた事業計画というものを、是非、見直していただきたいなというふうに思うわけでありまして。これが全てで、そこから議案がもちろんできていくわけでありまして、事業が今年成功するもしないも、議長・委員長の皆様が認めていただいたその事業計画書どおり、その開催の背景であったり、目的であったり、そして達成されるこの町の未来。それをしっかりもう一度確認して、また指導にあたっていただきたいというふうに思っているところであります。

また、今日もまた議案が上がっております。正副で一度協議をした部分ではありますが、また今日この常任理事会、皆様が揃った場においても一度理事会前に、ここのメンバーが執行部とよばれるLOMの中核であるわけですから、皆様の意見を出し合ってより精度の高い事業計画案を作っていく、そんな今日の常任理事会にしたいというふうに思います。本日の会議もどうぞよろしくお願いいたします。

1 1 . 直前理事長挨拶

欠席のため割愛

1 2 . 役員報告

<金> セントルイスの方に1月9日～13日まで行ってまいりました。はじめてのセントルイスで寒い中だったのですが、JBLということでJCIの理事会

等も見させていただきまして、今年エリア会議・世界会議等の日程の詳細がそこで決まってくる姿をみてすごいなと感じました。また、先輩のお墓参りだとかもしつづいろんな方々と接触するなかで、貴重な経験をさせていただいたなと感じております。少しでもLOMの方に反映させていけたらいいと思っております。

<橋本> まずは先日の1月10日の1月例会新春交流会、皆様のご協力を持ちまして、無事終了することができました。本当にありがとうございました。いろいろと反省点がございましたが、来年の1月例会の方にしっかり引き継げるように、しっかり検証したいと思っております。また今月、総会の方もございますので、引き続きよろしく願いいたします。連絡事項ですが、本日常任理事のメーリングの方、ハンドブック掲載内容についてのご確認のメールを流させていただきました。お手数ではありますが、こちら内容に間違いがないかご確認ください。もし修正・変更などある場合には、明日の夜までに変更点を連絡いただければと思います。

<須山> 1月24日金曜日に関東地区ナイトをおこなわせていただきます。常任理事会の皆様方、理事構成メンバーの皆様方におかれましてはご多忙かと思われませんが、ふるってのご参加お願いできればと思います。やはり関東地区として山本会長を輩出しておりますので、宇都宮JCの皆様が大いに主体になっていただいて盛り上げていただきたいと思っております。なんとか前日入りをして金曜から入っていただいて盛り上げたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<中島(崇)> 橋本事務局長から連絡はっておりますが、18日土曜日に護国会館にて関東地区役員会の第一回が開催となります。常任理事会構成メンバーの皆様におかれましては、お出迎えというところからご協力をいただきたいというふうに思いますので何卒よろしく願いいたします。続きまして、今後、1月の賀詞交歓会のスケジュールをご報告させていただきますが、先ほど理事長からお話がありまして、21日仙台JC、23日から京都会議に入りますが、27日福島伊達JC、こちらは福田副理事長・金常任・木村委員長と回らせていただきます。そして29日栃木JCの賀詞交歓会でございます。30日が埼玉中央JCということで予定をされております。

13. 協議事項

協-01 2月 市長を囲む会 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、林常任より上程文の読み上げ。

<中島(崇)> 本日上がっております議案全てに共通することですが、現時点での上程ということですので、参加員数計画の総数は2名拡大されておりますので、140名ということで、参加員数計画は全議案修正していただきたいと思っております。監事講評における監事でございますが、こちらは決めていただいた方がいいと思っております。先に決めて記載をしてください。それから細かいところが何点かありますが、タイムテーブルにおける認証書の文字が間違っております。シナリオに関しましてはJC宣言朗読ではなく、JC宣言文朗読

が正しい記載ですので修正をしてください。ビジターさんの案内文ですが、時侯の挨拶が入っておりませんので入れてください。市長公演依頼文、そちらに関しては謹啓・敬白に修正をお願いします。それから誤字・脱字に関する場合がございますが、意見と対応、こちらに関しては、正副理事長会議に変更してください。

<金> 対談シナリオですが、これはあくまで仮なのか、それとも佐藤市長に確認を取ってあるのでしょうか。

<林> 内容に関しては市長等の確認というものはこれからの作業ということになります。来週市長と会食という機会がありますので、そのときこういった内容を相談できたらと考えております。

<廣田> 予算の部分で、市長の質問に使用する2色の紙は予算に計上されていないように見えたのですが、どうお考えでしょうか。

<林> こちらは委員会のほうで手持ち金がありますので、そちらを使う予定です。

<須山> 席順についてですが、前から座るような段取りにするなど、そちらを委員会の役割として付け足して欲しいと思いました。

<林> 最前列にいたしましては、ビジターさんをご案内する予定となっております。ビジターさんに関しましても委員会で誘導して、拡大メンバーさんに引き継ぐという予定となっております。その後ろの委員会メンバーに関しましても、なるべく前列のほうから座っていただくような計画のほうを委員会で検討していきたいと思っております。

<太城> ビジターに配布する資料に各委員会の活動内容というのが簡単に書いてありますが、この委員会に入っていればえられるものとか、そういったメンバーの感想とかを書いたほうがわかりやすいのかなと思っております。J Cに入るときは最初迷ったりすると思うのですが、たとえば総務委員会に配属されてきたことなど、そういったものを書いておくと、よりJ Cのことが伝わるかなと思っております。

<林> 今記載してあるものは、LOMとして掲げているものを並べさせている内容になっていきますので、ただそういった生の意見はとりまとめをするのに時間のかかる内容ということもありますので、現段階で委員会の方でとりまとめができるかどうかを委員長と検討しまして、できれば前向きによりよいものになるよう修正を加えたいと思っております。

<橋本> 1部が終わった後に色紙を用いた対談アンケートを行うということになっておりますが、その対談アンケートの中身というのはどこに載っているのでしょうか。

<林> 私の説明がよろしくなく申しわけないのですが、アンケートは当日終了後のアンケートだけという形となりまして、対談に関しましては、法人会の方で会場の方に向けて質問を投げ掛ける、それに対して委員会メンバーがどういう考えを持っているか、ふたつの答えの色紙を用意していただいて、どちらかの色でメンバーが答えるということになっていきます。

- <橋本> このふたつの質問というのは、対談シナリオに載っているのでしょうか。
- <林> 対談シナリオの2枚目の2段目福田福前理事長からの発言で3つほどあります。赤か青の2択の答えのうち、どちらかを上げてもらうことによって、メンバーの気持ちをそちらで確認していただく。そしてそれを会場の皆様がみて、J Cとしてこういった割合で考えているのだということをお互いに確認し合うという設えです。
- <村上> 細かなところを出していただいて、方向的にはいいと思いますので、副理事長と相談しながら進めていけばいい事業になるのではないかと思います。ただ一点、どうしてもメンバーの学びの場にならないといけないと思いますので、そこだけ突き詰めて考えて欲しいなと思いますので、よろしく願いいたします。

協-02 3月 全国大会招致セミナー 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、羽石議長より上程文の読み上げ。

- <中島(崇)> 候補の講師経歴部分ですが、2行目の末松さんは第61回全国大会北九州大会実行委員長に訂正をお願いします。講師の交通費に関しましては、日本J C役員以外の方は、交通費は計上した方がいいと思いますので、ご検討ください。
- <太城> 全国大会となりますとJ C用語が多くなりますので、資料を用意した方がいいと思います。
- <羽石> こちらに関しては、2月市長例会で使ったものをさらにバージョンアップさせた形で用意していきたいと思います。
- <林> 意見と対応の部分ですが、載せていた資料を一度省いているという記載がありますが、当初どういった資料を検討していたのでしょうか。
- <羽石> 第1回の正副理事会に載せたものが、日本J Cが発行しております全国大会をめざすLOMの紙のマニュアルみたいなものがございまして、そちらの方から、実際全国大会をめざすにあたり、LOMの方ではどのようなことを決めていくのかという具体的な年間のスケジュールが載っていたり、日本J Cの方の、どのような流れで全国大会が決まっていたのかというものがございました。それにそって前回私が検討していたのが、水戸J Cさんが以前全国大会を取った際に、全国大会を行った年、前年、前々年にどのような形でLOMの組織が動いていたかというものを載せていたのですが、そちらの資料が1991年のものだったりとか、今から20年近く前の資料でありましたので、現状がそれどおりに動いているのかわからないということもありましたし、逆に水戸J Cさんの全国大会の資料を載せるのであれば、その実際の講師に来ていただく方に資料をいただくなりした方がいいと思いましたが、今回は省かせていただきました。
- <金> 可能であれば、周辺の県内のLOMの方々にも声を掛けていただきたいと思います。全国大会招致に向けて動くにしても、宇都宮J Cだけでは絶対にな

しえないことだと思うので、周りのLOMの方々のご協力というものが必要になってくると思いますので、是非ご検討ください。

<廣田> 会場の選対理由ですが、予算の兼ね合いとございますが、どういうことでしょうか。

<羽石> 前はヴェルビーだったのですが、10万円かかってしまいまして、10万円会場費で使うのはどうかという話がありまして、検討し、コンサーレの方にさせていただきました。

<須山> このあと講師と話を進めるとおっしゃっていたのですが、打ち合わせのシナリオとか何を話すかなどを、今後は記載していただけるとわかりやすいかと思います。そうすればメンバーにも伝えやすくなるかと思いますので、ご検討ください。

<村上> 上程時にも触れていましたが、ここの段階で一番必要なのは、全国大会を行うことによって、この街にどういう影響をもたらすかということだと思います。メンバーの意識を向上させて、統一させていかななくてはいけないというところで、そういう意味ではあまり欲張らないで欲しいというところはあるので、全国大会をやるためにはと考えると、色んなことをやりすぎていくと、おそらくメンバーは頭がこんがらがってしまうので、全国大会をやることによって、宇都宮はこういう街に変わるんですよというところを、極端に言えばその一点だけをメンバーにわかってもらえれば、大成功になると思うのです。それを考えるときに目的は果たしてこれでいいのかというのが正直あります。この目的だと、何が必要かを理解してもらえない。検証をするときにも、本当にメンバーが全国大会招致するにあたって何が必要なのか、わかりましたかと聞かれてわかっていないと、この事業をやった目的が達成されなくなってしまうので若干ここは精査してください。講師の方は開催当時の理事長ですから、その街のどう変わったかという前後を一番体感している人だと思うのでとてもいいと思いますが、これだけ候補が上がっている中で、本当に講師は一人だけでいいのか、二人呼んだら、三人呼んだらどうなのか、というのも目的が達成されるのであれば検討してもいいのではないかと思います。目的が達成できるというところを突き詰めて、また色んな意見を出し合ってもらえればいい事業になると思います。

協-03 4月 姉妹JC交流事業（案）について

協議資料に基づき、金常任より上程文の読み上げ。

<中島(崇)> 交換する記念碑ですが、記念碑だと歴史的なモニュメントみたいな意味合いになるので、記念品でよいのではないかという意見がありましたので、記念品で統一をお願いします。添付していただいているタイムスケジュールの記載を少し修正していただきたいというところと、2ページになっておりますので、1ページに設定にしていきたいです。シナリオに関しましては、進める以上は必要ではないかと思えます。

<太城> ハワイに行く背景、目的が薄すぎるのではないかと思います。何故、ホノルルチャイニーズJCに宇都宮JCメンバーが行くのか。この予算以外にも旅

費が10万円以上かかるわけで、それをかけてまで行ってえられることというものを、具体的に書いていただかないと納得していただけないのではないかと思います。

<廣田> 現在ホノルルチャイニーズJ Cとの打ち合わせがほぼない状態とのことですが、設え等の部分に関しては、ひっくり返る可能性もあるということでしょうか。

<金> ゼロではないと思っておりますが、ほぼ日程に関しても理事長からお話をいただいておりますので、良好な感じでございます。ただこれからのコンタクトによって、その部分を詰めていく予定でございます。

<林> 海外の事業ということで、どうしても言葉の壁が生まれてくるかと思うのですが、相互理解プログラムとか大勢の人が集まって通訳の方もそれなりに多数いないとうまくプログラムが進まないかと思うのですが、そういったことに対する問題は今どのようにお考えでしょうか。

<金> 設えの部分で正副の合同理事会や、相互理解プログラムに関しましても、極力英語を話せるメンバーをうまく配置をすとか、ある程度単語が話せる方とそうでない方の配置を考えたやり方を予定しております。司会に関しましては通訳を入れ、日本語で喋った司会を即英語で喋っていくような形をとっていかうと思っております。資料等が後々必要になってきた場合も、通訳をした形でやっていかうと考えております。相互理解プログラムに関しましては、資料をみていただければわかるとおおり、パワーポイントなども英語の表記がございますので、ディスカッションする中でそこまで大きな言葉の壁というものは感じないと思っております。懇親会につきましては先ほど言いましたとおおり、うまく配置をして、コミュニケーションを取れるような形にしていこうと考えております。

<廣田> この事業は4月で、ホノルルチャイニーズJ Cは2月から動き出すとおっしゃっていたのですが、上程スケジュールを見ますと2月で審議がおおるのでしょうか。あえてその状況で2月に審議を持ってきて、今月協議というのと、1ヶ月がもったいないのではないかと思うのですが、今月からの協議に至った経緯を教えてください。

<金> 3月からの協議だと、ホテルの予約だとかフライトのチケットの手配だとか、先方に対する案内文の発送だとか、そういったことがギリギリになってしまいます。ホテルやフライトに関すると値段がまったく違ってしまいますし、なるべく多くのメンバーに参加してもらいたいということもございますので、なるべく早い段階で審議をしていきたいという考えで、このような予定になっております。

<中島(崇)> 宇都宮J Cの歴史としては海外事業を行ったことはありますが、ここ数十年はおこなったことがなく、我々の世代からは初の事業といっても過言ではないものでございます。そういう点もかなり大きい中で、しっかり協議をいただいている内容だと思うのですが、何かアドバイス・意見等いただければありがたいと思うのですが、いかかでしょうか。

- <須山> メンバーがみてハワイに行くかどうかというところがポイントだと思うのですが、これをみて楽しいことが起きそうだなというワクワク感が少し伝わりにくい気がします。まだ時間はあると思いますので、ワクワク感を出してください。
- <澤畑> 基本的に難しい事業だと思うのですが、相手の交渉ができていない段階で本来だったら協議に出せないと思います。たとえば研修例会の担当の方が講師も約束できていません。会場も取れていません。ただ僕たちはこういうことをやりたいです。協議してくださいと言われてもちょっと待ってとなります。会場の予約が取れ、講師も打ち合わせできていてもひっくり返ることもあるし、問題がある部分もあるからそれに対して協議して選んでいく。大変難しいとは思いますが協議になるのかなと思ってしまいます。本来だったらこれは協議に値しないと言ってしまおうと少しきついかと思うのですが、他の委員会からしてみれば、委員会の中でやっていることを持ってきたようなものから、そのレベルで協議になれるのかなというところでは。
- <金> 言い方をちょっと変えさせていただくと、ある程度相手に対して、宇都宮JCとしてはこういうことをやりたいのですということに向こうに持っていないと向こうもそれに対してイエスもノーも言えないと思うのです。我々としてはこういうことをやりたいのだということをしかりと、ぼんやりとかもかもしれませんが、まとめて持って行きたいと思っていたところが一つでございます。講師に関しては、理事長からお話を色々とおして頂いておりますので、藤井君を筆頭に委員会の方で、これから全力でコンタクトを取っていきますのでその上で考えていただけたらなと思っております。
- <澤畑> もう一点ですが、この目的だとハワイに行かなくてはいけない理由がわかりません。日本でやってもいいわけですが、どうしてもハワイでやるというのが伝わらない。会員の会費を使うわけですし、ただホノルルでやりますというのがありきではメンバーは納得しないです。ならば目的を変えるなりしなくてはいけないし、もし私が普通に理事でいたら、この目的を達成するためにこの設え以外を考えましたかと聞いてしまうかもしれません。ホノルルになったという経緯を書かなくてはいけないと思います。やっぱり難しいことだと思うし初の試みなので、ああそうですかとは中々いえないと思いますし、すっきりした状態で講師をしていただききたいと思うのでよろしく願いいたします。
- <村上> まずは今日いただいた意見が貴重な意見でありますので、真摯に受けやめていただく部分もあるのですが、僕の方からメンバーの皆さんに理解していただきたいというところがあるのですが、僕は委員会が一番大変だと思うのです。ですがこれは相手あることで、この議案書とかこういうシステムは日本ならではです。世界のJCに僕らのやり方を押し付けるのもちょっと違うと思います。どこまでいっても目的は精査してもらうにしても、目的が達成できるというところに重きを置いてほしいと思っています。色々大変なところはあろうと思うのですが、必ず姉妹JCの交流というものも、この街の僕らのため、地域のためになると思っていますので、姉妹JCと何もしないなら、なぜ姉妹JCなのだろうというところがありますので、そこは強く信じていただきたいというふうに思います。僕から一点、違和感があるのが記念品のことです。この金色の輪というデザイン、何でこうなるのかなという部分があります。所信に輪が出てくるのかということそうではないので、たとえば姉

妹 J C の締結した文書とかにこういうのがあるのかないのかわからないですが、こういう記念品の意味をデザインも含めて考えてほしいなというのが一点と、多分この世界の J C の常識的な部分としては、ギフトって交換なのです。お互い理事長同士がサインしたものをギフトとしてというのはあんまりないので、絶対に僕らが行くと、行く人全員に対して、向こうはギフトを用意しています。そういった常識的な部分があるので、記念品についてはもう一度考えてほしいなというところと、こちらもちあらのメンバー全員分のギフトを持っていくべきだと思います。これも事業の中に踏み込んで、そんなに高価なものではなく一個数百円のものでいいのです。そういうものをギフトとして交換しあうというのが J C の世界的交流の常識となりますので、もう一回検討してもらえるといいと思います。

協-04 5月 第33回わんぱく相撲うつのみや場所 開催計画並びに予算(案)について

協議資料に基づき、林常任より上程文の読み上げ。

- <小瀧> 正副でも意見が上がっているのですが、赤津さんの資料を載せろということではなく事業目的と合致しているかを知りたいということで、この人の芸を仕草とか動きをみて、これは誰のモノマネと言われてもわからないだろうし、事業目的とも合っていないし、ここで20万円を使うのも勿体ない気もします。もう一度ご検討いただきたいです。
- <林> 相馬委員長の想いとしまして、一番は笑顔を引き出す、そしてこどもたちに元気を与えるというところで赤津さんを選んでおります。お笑いというあまり響きがよくないかというところはございますが、是非、相馬委員長の想いをご理解いただければというところがございます。今日頂いた意見を持ち帰り参考にしまして、よいアトラクションができないか精査して参ります。
- <木村> アトラクションがベースなのでしょうか。目的がだいぶ反れている気がします。委員会で目的をしっかりと見つめ直していただきたいと思います。
- <太城> 予算をみていると昨年80万円でやっていましたが、今年20万円アップして、そのアトラクション費以外だとほぼ同じなのですね。余ったからこれに使うという浅はかな内容に感じてしまいます。のぼりも昨年作っているのに何故今年も作るのかなと思いました。話がまったく委員会の方でできていないのが見えてしまっています。赤津さんにその20万円の価値があるのかということと、笑いと笑顔はまったく別ですから、笑いですり替えようというのは浅はかすぎるかなと思います。
- <林> のぼりの件は、ここ2、3年花道にのぼりを並べて入場する際の気分を高めるという設えがあると思うのですが、今年はさらにそういった設えを拡大して雰囲気を出したいというところでの思いはあります。委員会で精査できていない部分が多々ありますので、その部分を含めて精査していきます。
- <木村> メディアアーツさんの司会についてですが、事前説明会に来てもらうということですがおそらく変わらないと思います。いつも委員会の方でお伺いして事前に練習してもああいう状態なので、それを説明会に来てもらってもまったく変わらないと思います。そこを委員会で検討してください。

<金> 赤津さんのことですが、相撲はそもそも神聖なものだと思うのですが、それに対してネタだとかやるのは、非常に相撲を愛してやまないという保護者の方がいた時にとても失礼に当たることじゃないかと思います。人を呼んでそういうネタをやるということは、そういう方々にとっては我々宇都宮 J C のスタンスを疑われるようなことになると思うので、もしやるのであれば、きちんとそういうところを分けてやらなければ危険だと感じます。それと、例年同じような方とか同じような団体とか、もしくはメンバーのお子さんとか知り合いとかの参加者が非常に多いように感じます。新たに今まで来なかったような団体などへのアプローチというのを、委員会として考えていただきたいという希望があります。せつかく予算と時間がありますし、なにか考えられるのではないかと感じておりますので、是非、ご検討ください。

<中島(崇)> アトラクションに関しましては、目的の精査から、本当にアトラクションが必要なのかというところにもう一度目を向けないといけない話だと思いますし、常任理事会として話をするのであれば、子どもたちの安全とか動員をどうするかなど、そういった点をもっとクローズアップして、会議を進めなくては行けない点だと思いますので、一度ここで修正をしていただいて、理事会までに検討していただければというふうに思います。

<村上> 色々な意見が出ましたが、僕が思うのは継続事業ではありがちなのですが、議案自体がイベント屋になっているのだと思います。J C でなぜこの事業をやるのかというのは、絶対運動論なのです。継続事業だとこのイベントをやるというふうに捉えがちところが難しいところではあるのですが、もう一回委員会メンバーにしっかりと所信を読んでいただいて、今年の宇都宮 J C がめざしている方向、子どもたちにどういう大人になってもらいたいかというところを深く理解していただいた上で、しっかりした運動論を持ってわんぱく相撲というものを開催して欲しいと思います。多分その視点に立つと、少し内容が変わってくると思います。是非、常任理事は委員長の指導をする立場にありますから、そこでしっかり副理事長と共にしていただければ、いいわんぱく相撲が今年も開催できると思います。

協一〇五 五月 第三三回 わんぱく相撲うつのみや場所 告知計画ならびに予算(案)について

協議資料に基づき、林常任より上程文の読み上げ。

<中島(崇)> 告知なので文面関係がメインになってくると思うのですが、審議対象資料の依頼文・挨拶文・案内文ですが、時候の挨拶が入っていないものがほとんどです。体外に団体として出す部分で時候の挨拶が入っていないのはちょっとおかしいと思いますので、入れてください。8番・9番・11番・12番・16番・17番・18番・22番。こちらは修正をするようにしてください。

<羽石> 質問ですが、協賛いただく企業の要項のところの協賛団体の権利というところで、わんぱく企業の会場内にて宇都宮 J C の認めた PR 活動を行うことができるということがあるのですが、具体的にその辺はどのように考えているのかということと、毎年こういった形で協賛頂いていると思うのですが、実際それだけで終わっている気がします。物を頂いたりしていたらそ

れなりの対価がありますのでお返しとしてPRができるような、たとえば大会冊子にページを載せたり、PRしている方が来た時にちゃんとやっているなというような設えをしていただけたらなと思います。

- <金> 質問ですが、参加者募集に関しては例年と何か変わっているのでしょうか。より多く応募が来るような工夫や取り組みはされているのでしょうか。
- <林> 内容自体は特段変更ございません。新たな取り組み、新たな募集先に関しては、まだ委員会で十分な検討ができていませんので、開催計画と合わせまして、もう一度よく検討してまいりたいと思います。
- <橋本> 小学校の校長先生の案内文があるかと思うのですが、お願いの文書で各位と書くのは少し違和感を感じました。本来はお願いでしたら個別になっていくのが普通だと思うのですが。
- <林> 例年のわんぱく相撲の資料を参考に作成しておりましたが、ご指摘していただいたので、これを機会に改善を検討していきたいと思います。
- <木村> 学校の校長は異動があるので、それで個別の名前を出すというのはできないのだと思います。
- <小瀧> 協賛のベルモールさんは、ラフェステさんと名前が混じって誤表記になっているので直してください。協賛会社で毎日新聞さんや産経新聞さんは、株組織なので前株、後株がないとおかしいのではないかとということと、意見と対応のフォーマットの間が空きすぎているので直してください。
- <廣田> 予算ですが、支払い時期によっては8%となるとと思いますので、その辺を反映させたような予算を是非お願い致します。告知で2万5千円という予算を上げているのですが、これがどの部分に該当しているかが見えないので、その辺を明確にしていいただければと思います。
- <林> 2万5千円は広報費のコピー代と全員の参加者の郵送費を合わせた額となっておりますが、内容がわかりにくくなっておりますので訂正していきます。
- <須山> 動員計画ですが、2014年のわんぱく相撲は250名を目標とされていると思いますが、昨年の黒川委員長の際は満杯状態で、団体戦を少しお断りした状態でした。告知計画とも関わると思うのですが、全体のタイムスケジュールを少し見直した方がいいと思います。そうすると先ほどのアトラクションを優先してしまうと、相撲を取りたくて早くやりたいと思っている方ができなくなってしまう可能性がありますので、アトラクションで時間を割くよりは、参加者のことを優先した方がいいかと思います。休憩なんかもありますので、タイムスケジュールもよく考えていただきたいです。広報費にお金をたくさんかければ集まるかといったら難しいところなのですが、300人とか来てしまうと団体戦もできないと思いますので、何人を目標にしてどういうふうやっていくか決めた方がいいと思います。アトラクションというのはもともと個人戦、決勝戦、団体戦の流れの途中で帰らせないための仕組みだったと思いますが、近年は参加者も増えてきましたので、もうアトラクションはいらないのかなというところまで来ていると思います。ただ

人数は水物なのでわからない部分が多く難しいとは思いますが、大体リピーターが8割ですのでもう少し検討していただきたいと思います。

<羽石> 来月審議だということですが、広報にあたってJ C運動発信委員会とどのような打ち合わせをしているかお聞かせください。

<林> 具体的な打ち合わせというものは今できておりません。口頭でのやり取りということになっています。正副会議で貴重なご意見をいただいたところでありましたので、こういった意見をふまえて、是非、やっていきたいというところのやり取りまででして、具体的な取り組みはこれからしていきたいと思っています。

<木村> 動員にあたってかなり人数が増えた場合、宇都宮J Cに審判ができる資格者が多いので、予備士俵もうまく使ってやる設えもあると思うので、検討してください。

協-06 その他

なし

14. 報告事項

報-01 その他

<中島(崇)> 年間スケジュール、組織図、出向者等の変更を入れさせていただき予定でしたが、今回変更が漏れておりますので、次回理事会までには変更させていただきます。

15. 監事講評

<澤畑> お疲れ様でございます。まずは通常より30分早い開会とあり、負担も大きかったと思いますが、設営いただけまして大変ありがとうございます。本日が第1回目の常任理事会ということで、また、12月までこのような会を開催できるのも皆様がいらしてくるおかげだと思いますので本当にいつもありがとうございます。

さて、冒頭に少しお願いがございます。本日本村委員長と横島副委員長がいらっしゃっておいりました。確かに常任理事会の構成メンバーではないので発言権はないのですが、やはり事業というのは宇都宮J C全体で作りに上げていくものがございますので、もしできましたら、少しの時間で結構ですので、事業に対する思いですとか、何か発言のお時間をいただけるといいのかなと思いました。

内容のほうですが、本日協議案件が5本ということで、こちらの内容については時間の関係もがございますので細かくは触れませんが、2013年度と比べて変わってきている点というのがございます。前年度は、公益事業は上程が3回で、共益が2回。今年度は基本的には2回の上程でいいということになっています。これはどちらがよい悪いというお話ではございませんが、

やはり上程の回数が1回少ないということは、それだけ議論をする時間が少なくなってきたわけであります。申しわけないのですが、先ほど金常任のほうから姉妹J Cの交流事業のほうは完成度が60%ぐらいというお話がございました。本来2回で上程をするのであれば、本当に8割9割できあがっている議案がまず出てこないといけませんし、6割の議案であれば上程スケジュールは3回にすべきではないかなと思います。それだけ回数が少ない分、議案書の完成度を上げないといけませんし、この常任理事会の場で議論する内容も、去年と比べてもよりレベルの高い濃い議論をしていく必要があると思いますので、是非12月まで上程する議案はより素晴らしい内容の上程をしていただければと思います。

そして、一般的によくJ Cは失敗することができるからいいのだという言葉がかつて聞いたことがあります。それはある意味正しいのですが、ある反面、たとえば以前選挙のとき公開討論会をやって、急に決まったことなのでなかなか参加者が集まらず、観客の方も少なく、それで翌日の新聞でひどい書かれ方をしたようなこともございました。そういった面をみていきますと、特に公益事業については失敗が許されない状況になってきているのが現実でございますので、そのあたりもふまえて、是非、これから様々な公益事業の議案も出てまいります。この常任理事会の場で、今まで以上に素晴らしい議案を作っていただければと思います。

少し厳しいような言い方をしてしまった部分もありますが、是非、私からのエールととらえていただきまして、12月の理事会、さよなら例会の議案まで素晴らしい内容の議論が今後この常任理事会でなされていくことを祈念申し上げまして、講評とかえさせていただきます。

16. 閉会宣言

<中島(崇)>

公益社団法人宇都宮青年会議所
2014年度 第1回 常任理事会議事録

議長：(専務理事) 中島 崇

議事録作成人：総務委員会